

# 進捗状況報告シート

(2011年度・大学)

担当部局は   ☆印の箇所を記入してください。

## I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	人間福祉研究科
<b>大項目</b>	<b>6 教育内容・方法・成果 (研究科)</b>
<b>中項目</b>	<b>6.1 教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針</b>
<b>小項目</b>	6.1.1 教育目標に基づき学位授与方針を明示しているか。
<b>要素</b>	学士課程・修士課程・博士課程・専門職学位課程の教育目標の明示 教育目標と学位授与方針との整合性 修得すべき学習成果の明示
<b>小項目</b>	6.1.2 教育目標に基づき教育課程の編成・実施方針を明示しているか。
<b>要素</b>	教育目標・学位授与方針と整合性のある教育課程の編成・実施方針の明示 科目区分、必修・選択の別、単位数等の明示
<b>小項目</b>	6.1.3 教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針が、大学構成員(教職員および学生等)に周知され、社会に公表されているか。
<b>要素</b>	周知方法と有効性 社会への公表方法
<b>小項目</b>	6.1.4 教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の適切性について定期的に検証を行っているか。
<b>要素</b>	

## II. 自己点検・評価(2010.5.1~2011.4.30の進捗状況報告)

### 《目標・指標》

本項目において、2009年度~2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の評価を行っている。進捗評価はA~Dの4段階とし自ら評価した。A~D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 高い実践能力や実証研究能力を涵養するという教育目的を達成するために具体的な教育目標や方針を設定する。	→達成可能な目標や方針について関連するすべての広報媒体での公表。	C	C			
2. 2013年度までに修士号と博士号の学位授与の方針および過程を明確化する。	→学位授与に至る方針および経過に関するロードマップの作成、指導体制の明示。	C	B			
3. 教育目標、方針、課程および学位授与方針に関して、大学院関連のすべての広報媒体で公表する。	→大学ホームページ、大学院案内などすべての広報媒体における公表。	B	B			
4. 教職員、大学院生により教育目標、方針、課程および学位授与方針の達成状況をアンケート調査により評価する。	→教職員、大学院生に対するアンケート調査の報告書の作成。	-	C			

☆

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

《現状の説明》 ※ 全小項目について記述が必要

小項目6.1.1	6.1.1 教育目標に基づき学位授与方針を明示しているか。 (方針明示の有無) いずれかにチェックしてください。 →→→→→→→→→→ <input checked="" type="radio"/> 明示している <input type="radio"/> 明示していない (学位授与方針) 実践能力や実証研究能力を涵養するという教育目的を達成するために具体的な目標、方針を設定し、それらを明示する。それらの達成状況を評価する。
	(説明) 学部・大学院設置趣意書において学士・修士・博士課程の教育目標をすでに明示しており、2010年度はそれらに基づいて教育目標を様々な媒体で明示してきた。学位授与方針についても大学院要覧等で明示している。習得すべき学習成果の明示については、2009年度は十分ではない面があったため、2010年度は、大学院諸問題検討委員会で検討課題として取り上げており、まだ内容については検討中である。
★ 小項目6.1.2	6.1.2 教育目標に基づき教育課程の編成・実施方針を明示しているか。 (方針明示の有無) いずれかにチェックしてください。 →→→→→→→→→→ <input checked="" type="radio"/> 明示している <input type="radio"/> 明示していない
	(説明) 教育目標に基づく課程の編成・実施についても、学部・大学院設置趣意書の中ですでに明示しており、公表している。大学院設置の完成年度を迎えた2010年度は、大学院のカリキュラムの見直しをし、カリキュラムの変更を一部行った。今後は、教育課程全体の見直しを検討していく予定である。
小項目6.1.3	6.1.3 教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針が、大学構成員(教職員および学生等)に周知され、社会に公表されているか。 (周知・公表の有無) いずれかにチェックしてください。 →→→→→→→→→→ <input checked="" type="radio"/> 周知・公表している <input type="radio"/> 周知・公表していない
	(説明) 教育改訂の編成・実施方針に関して大学構成員に周知され、社会に公表されているかという点については、すでにホームページや大学院要覧などの広報媒体で公表している。
小項目6.1.4	6.1.4 教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の適切性について定期的に検証を行っているか。 (検証の有無) いずれかにチェックしてください。 →→→→→→→→→→ <input checked="" type="radio"/> 検証している <input type="radio"/> 検証していない
	(説明) 教育課程の編成・実施方針の適切性の定期的な検証の実施については、2010年度は、大学院諸問題検討委員会で幾度となく、検討を重ねており、今後定期的な検証体制を構築することを検討している。
その他	

《評価指標データ》

カリキュラムの編成や体系等を常に検討する委員会の有無と開催頻度  
 必修・選択ごとの開設授業科目数  
 系列別卒業必要単位数

★ 追加データがあれば追加してください。

◎効果が上がっている事項 ※目標の進捗評価が「A」の場合は必ず記述してください。

《点検・評価(1)》効果が上がっている事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

小項目6.1.1	
小項目6.1.2	
★ 小項目6.1.3	
小項目6.1.4	
その他	

【次年度に向けた方策(1)】伸長させるための方策

注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

小項目6.1.1	
小項目6.1.2	
★ 小項目6.1.3	
小項目6.1.4	
その他	

◎改善すべき事項 ※目標の進捗評価が「D」の場合は必ず記述してください。

【点検・評価 (2)】改善すべき事項		注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。
小項目6.1.1		
小項目6.1.2		
★小項目6.1.3		
小項目6.1.4		
その他		

↓

《次年度に向けた方策(2)》改善方策		注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。
小項目6.1.1		
小項目6.1.2		
★小項目6.1.3		
小項目6.1.4		
その他		

◎自由記述

【点検・評価】&【次年度に向けた方策】	
★その他 (自由記述)	

Ⅲ. 学内第三者評価

＜評価専門委員会の評価＞

【学外委員】

○「現状の説明」6.1.1「習得すべき学習成果の明示」について、早急な対応が望まれます。

【学内委員】

○教育課程の編成・実施方針についてはすでに明示されていますが、さらに検討を進めているようです。しかし、小項目6.1.2の説明など、すでに決められていることと、その再検討が行われていることとの関係の説明がわかりにくいように思います。

○目標2は、「2013年度までに修士号と博士号の学位授与の方針および過程を明確化する。」としています。今回、この点に関する評価がBとなったのは、ロードマップの作成・指導体制の明示への実施準備がほぼ完了したということでしょうか。目標4は、「教職員、大学院生により教育目標、方針、課程および学位授与方針の達成状況をアンケート調査により評価する。」としています。今回、この点に関する評価がCとなったのは、アンケート調査実施の合意ができたということでしょうか。

○小項目6.1.1の（学位授与の方針）は学位授与の方針そのもの（内容）を書いてください。なお、学位授与方針については、大学基準協会の留意すべき事項を参照してください。

○小項目6.1.2については、大学基準協会の留意すべき事項に従った記述が求められます。

○周知・公表については、教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針の周知・公表について聞いています。その記述をお願いします。

○検証については、教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針の検証について聞いています。その記述をお願いします。

【大学基準協会：評価に際し留意すべき事項】

○小項目6.1.1

基盤評価：「課程修了にあたって修得しておくべき学習成果、その達成のための諸要件（卒業要件・修了要件）等を明確にした学位授与方針を、理念・目的を踏まえ、設定していること」

達成度評価：なし

○小項目6.1.2

基盤評価：「学生に期待する学習成果の達成を可能とするために、教育内容、教育方法などに関する基本的な考え方をまとめた教育課程の編成・実施方針を設定していること」

達成度評価：なし

○小項目6.1.3

基盤評価：「公的な刊行物、ホームページ等によって、教職員・学生ならびに受験生を含む社会一般に対して、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針を周知・公表していること」

達成度評価：なし

○小項目6.1.4

基盤評価：なし

達成度評価：「検証を実施する体制を整備し、責任を明確にするなどしたうえで、教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の適切性について、恒常的かつ適切に検証を行っている」

#### IV. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

○目標2がCとなったことについては、研究科においてアンケート調査と調査票の作成の必要性が報告され確認されたためである。

○小項目6.1.1 (学位授与方針)

前期課程の修了要件として、1) 2年以上の在学、2) 必修科目14科目を含む34単位以上の単位修得、3) 修士論文審査合格の3つがある。後期課程は、1) 3年以上の在学、2) 必修科目14単位の単位修得、3) 博士論文審査合格の3つがあるが、これ以外に内規において博士学位カンディデートのシステムを明示している。具体的には入学後2年間で学会発表を2回以上行い、また論文を2編以上投稿・採択されており、博士学位申請論文中間報告書を提出し口頭試問に合格したものがカンディデートとなり、その後、1年以内に博士論文を提出することとなっている。

★

○小項目6.1.3 (説明)

教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針等については、大学基準協会の小項目6.1.3にあるように、ホームページ等で公表されており、また授業科目履修心得、また内規等においても学生に周知している。